

阿蘇草原再生への参加の輪を広げていくための事業に取り組んでいます。

THEME 01

環境教育教材づくりを進めています

次世代を担う子供たちに少しでも阿蘇の草原に関心を示してもらおうと、学校教育の現場で活用してもらえる教材づくりを進めています。

教材は、阿蘇の草原環境と人々の営みをテーマとしたカレンダー、先生用のハンドブック、修学旅行生用のパンフレットを予定しており、現在、郡内



草原に出て、学習の様子。

の学校教育・社会教育関係者などが参加した作業部会を開いて検討を進めているところです。平成16年11月9日、第1回目の作業部会を開催し、夜遅くまで熱心な議論が行われました。

カレンダーと先生用のハンドブックは平成17年4月、郡内の全小中学校に配布する予定です。

THEME 02

牧野の作業を支援するツアーを開催しました

阿蘇の草原利用と維持・管理活動の人手不足を補うため、都市住民らによる新たな作業支援の仕組みづくりを考える

ツアーを開催しました。会場は、町古閑牧野、木落牧野、池の窪牧野の3牧野で、今年10月にそれぞれ1泊2日の行程で実施。全画段階から地元牧野組合



草小積みを手伝うツアー参加者（平成16年10月17日、池の窪牧野にて）

長や地元仲介組織などに参加いただき、作業部会としてツアーを主催しました。

今回のツアーは、支援者の裾野を広げることがテーマでしたが、10～30代を中心に合計24名の都市住民の参加がありました。

ツアー終了後に牧野組合員に行ったアンケートでは、「思った以上に作業の役に立った」「来年以降も受け入れていきたい」という意見が多くありました。



ツアー終了後、今後の可能性の検討などのために開かれた作業部会（平成16年11月16日）

インタビュー 草原を守る人々



草尾直美氏

畜産職家に生まれ、大学で畜産を学んだ後、海外研修を経験。帰国後、狩野牧場で専業従業員として牛の飼育・管理を行う

1年ほど前から狩野牧場で、牛の飼育・管理の仕事を始めました。私が牧場にいることもあり、友人が牧場に遊びに来ます。なかには、「子供たちに草原の気持ちよさを味わわせてあげたい」という保育士や、「牧場で草原保全を呼びかけるイベントをやりたい」という友人もいて、同じ世代の人たちが草原に関心を持ってくれることに大変喜びを感じています。

その草原を保全する重要な役目を担っているのが畜産業だと思っていますが、阿蘇の畜産業は後継者不足により継続が危ぶまれているのが現状です。草原を保全していくためにも、休日を確保するための「ヘルパー制度」の活用など、若者が働きやすい仕事環境をつくり、後継者を生み出していくことが大切だと思っています。